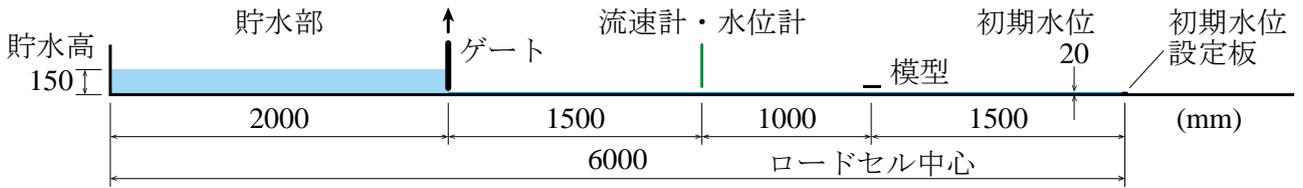
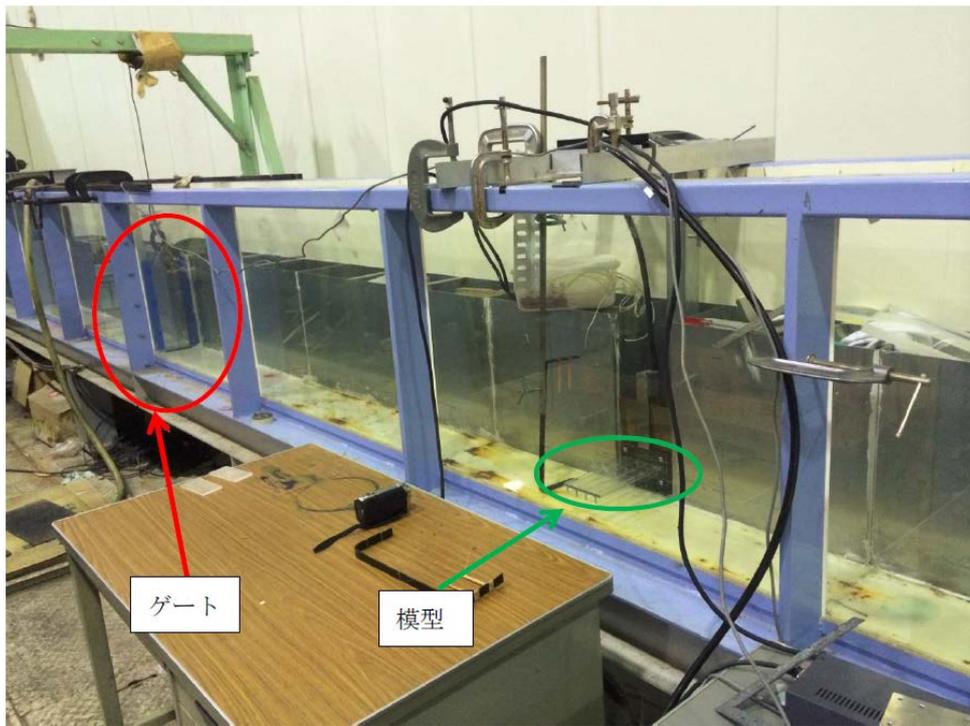


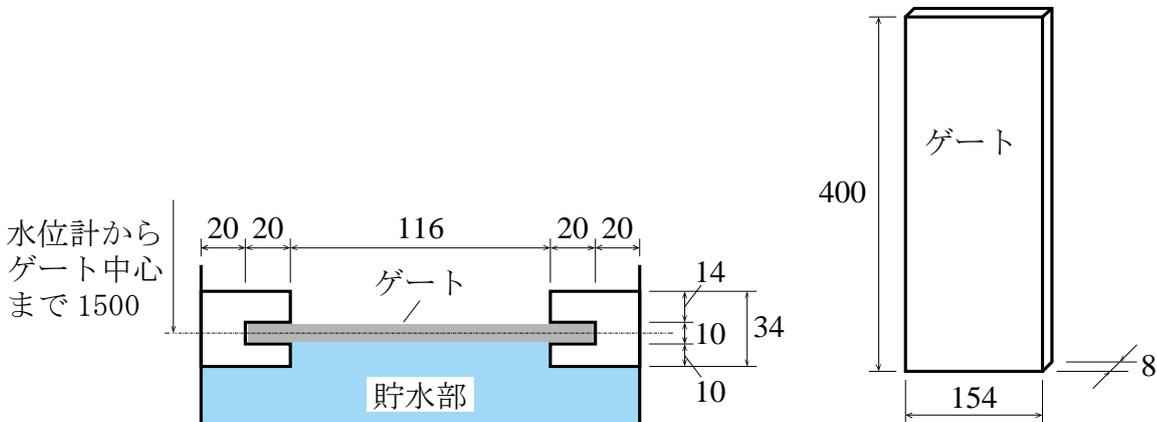
水路側面図



ゲートを急開することによって貯水部に貯めた水を流し、津波を模擬した波を発生させた。貯水高は150mm、水路部の初期水位は20mmとした。ゲート中心から模型に作用する力を計測するロードセルの中心まで2500mm、流速と水位を計測した位置まで1500mmである。初期水位設定板より右に水路は数m続いている。データは、右端で反射した波が戻って来るまでの計測になっている。

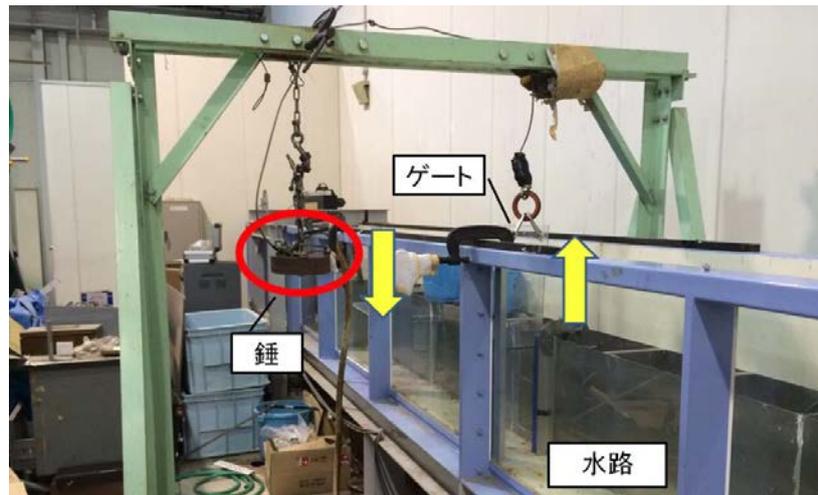


ゲート部詳細

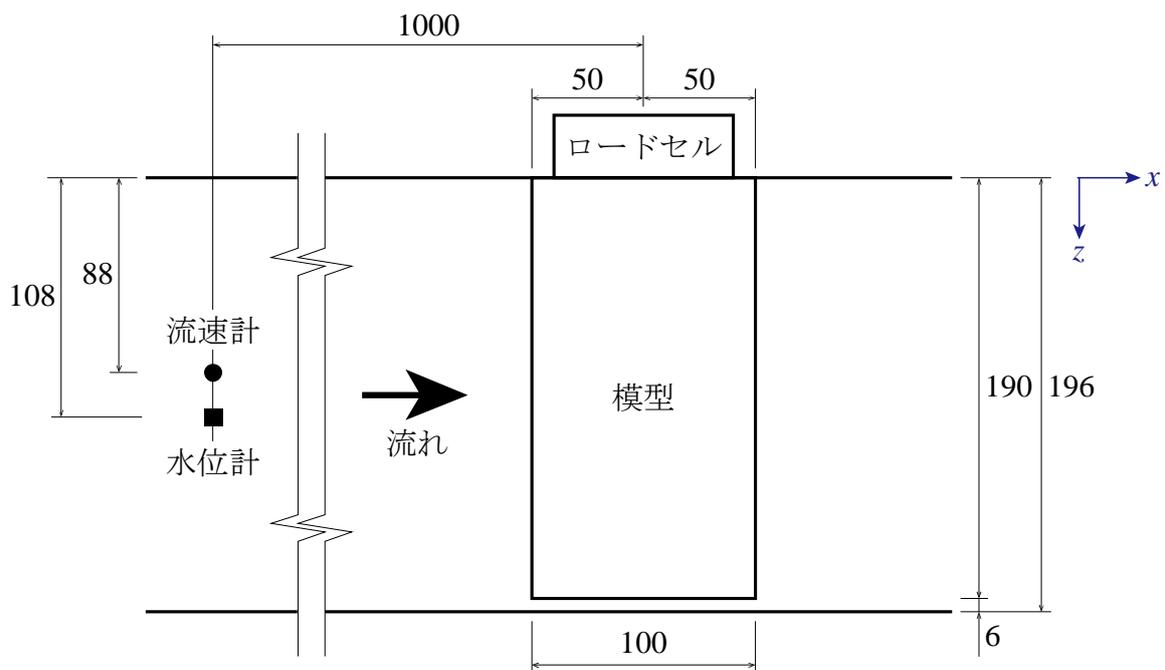
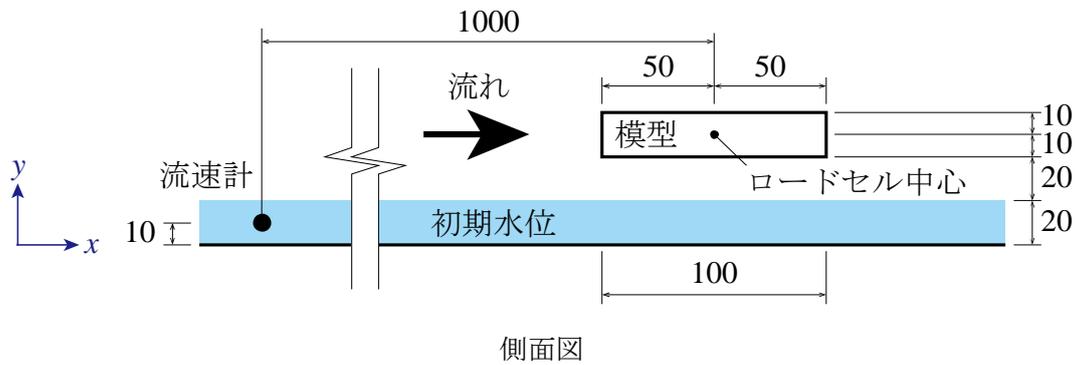


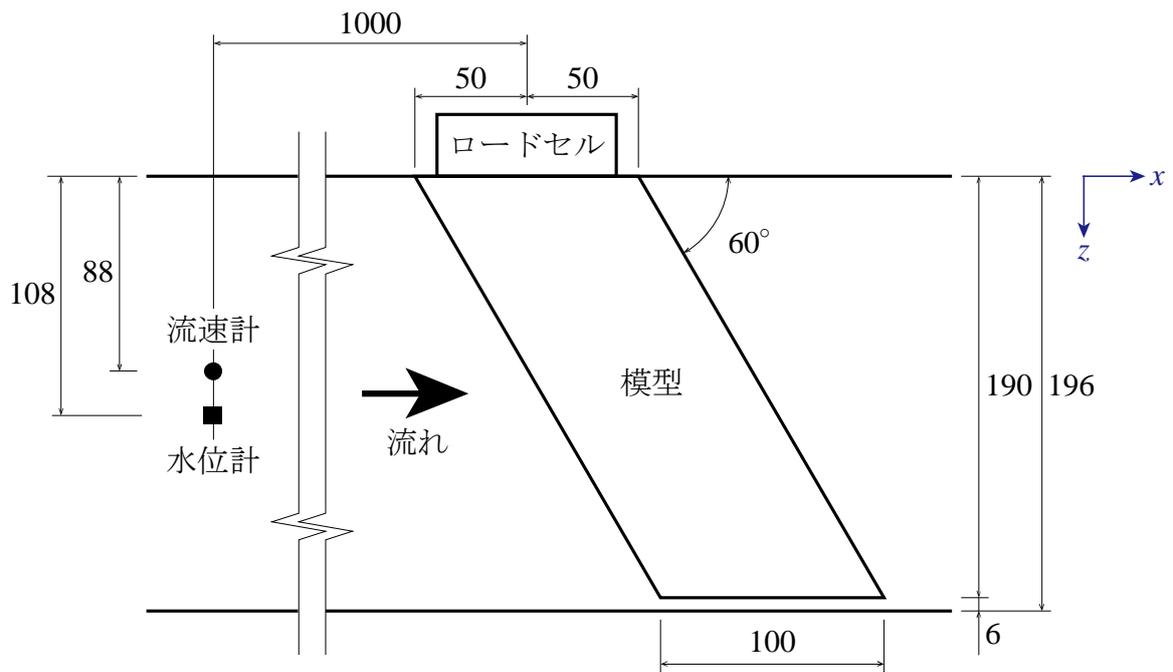
ゲートは、ネジ内にバネの入ったボールプランジャでゲート支持具に押しつけられており、ゲートから

ワイヤーを介した錘を落とすことにより急開した。錘は 8.46kg, ゲートは取り付け金具を含め 1.4kg. ゲートが 400mm 開ききるのに要する時間は 0.13 秒.



水位・流速計測位置および模型取り付け部周辺





斜橋模型を設置した平面図

模型はアクリル製で、直橋は幅 100mm×高さ 20mm×奥行き 190mm，斜橋も同様に図のとおり斜角 60° である。



模型取り付け部の中心とロードセルの中心を合わせた。ロードセルで片持ち梁的に模型を支持している。プロペラ式の流速計で水路底面から 10mm の位置の流速を計測した。水位は容量式波高計で計測した。ロードセルで計測した力の向きは下図のとおりとする。

